

釣れ釣れなるままに

1995年思い出の釣行記 PART. 2

# 東河内別荘



岩見沢釣遊会

**鹿島釣狂**

## 釣遊会第2回大会

☆開催日	平成7年5月28日
☆開催場所	歌別川～岬港
☆入釣場所	東歌別
☆潮	満潮 01:23 127cm 干潮 08:45 15cm
☆天候	晴れ 南風 波穏やか
☆エサ	イカゴロ70 カツオ8 サンマ5 イソメ1 ソイアブラコカジカ3 イサダブロック2 マグロミンチ1
☆釣果	アブラコ 451 mm 5 カジカ 422 mm 3 ハゴトコ mm 6 重量 553 0g
☆成績	点数 1426 点 準優勝

第1回は日曜参観日のため参加できず。今年は何回参加できるのだろうか。7/16は学年PTA行事(学校キャンプ)を入れてしまうし……。受験のことを考えると5回参加は難しそうである。大物賞狙いで頑張ろう。

昨日までの雨天とは変わって、久しぶりのよい天気である。運動会練習も流れることが多くて当日が心配である。

今回は土曜休業日であり、朝から準備に精出す。カナダ屋に12:00頃出かけるがエサの仕入れがまだで45分くらい後になるということなので待つことにする。大前氏と雑談しながら待つこと2時間、ようやく到着した。雑談もまた有意義。

出発。バスの中で佐々木氏より「西東洋は深いのでまだ海水温が温まらず難しい。なるべく西寄りがい。東歌別でじっくり粘ってみたら……。暗い内はマキエを打ち、それが干潮になるにつれて前方に流れていくから、それに合わせて少しずつ前を出て打ち続けるのがよい」とのアドバイスがある。

東歌別で高田氏と一緒に下りる。高田氏はバス停から下りたすぐの舟揚場(F)。私は隣の溝(「1本目の舟道より5mほど離れた3mほどの溝。沖に向かって右斜めに溝があり、舟道との間の岩盤で沖から来た波が盛り上がるようになるので分かる」と佐々木氏より言われて



いた。実際には10mほど離れ幅も20mほどある。)に向かって打つ。実際には佐々木氏より言われていた所より心持ち右に寄っているのだが、その感が正解である。竿尻が持ち上がり、33cmほどのアブラコが上がる。高田氏が様子を見に来て私のすぐ左に入る。3時頃カジカ32cmがあがる。

少し潮が引き始めたので高田氏は舟揚場の左に移動していった。潮がグングン引き始めた。私たちのすぐ後に右方向の舟揚場入った釣り会の御仁が頭を出してきた岩に移動してきた。打っている溝は違うが気が気ではない。私もその横に並んで、先程から打っている溝に向かって打つ。出岬まで一気に行けないか空身で確かめる。何とか渡れそうなので股下の海水を漕いで先端に出ることができた。ホッと胸を撫で下ろす。高田氏もすぐ後に付いてきた。競っていた御仁は右方向の出岬に上がった。

6:00 アブラコ 40cm弱 近投 やったー マキエがよいのか・・・

7:30 アブラコ 45cm 遠投 マキエがなくても遠投の方が・・・

8:00 カジカ 38cm 近投 やっぱり入釣時から打ち続けてきたマキエの効果が出ているのか

8:10 アブラコ 40cm弱 遠投 ウン。マキエは沖へも出ているのか。近投しているところはどんなところだ。なんだ、こんなに浅いのか。だからカジカがいるのかな。

8:45 カジカ 43cm 近投 やっぱりカジカは明るくても浅いところに打っていれば出てくるのか。食べていた磯ガニを吐き出したぞ。

9:20 アブラコ 44cm 遠投 アブラコは遠投でカジカは近投か？

9:40 片付ける

10:10 上がる

10:30 バス到着

審査の結果

準優勝 アブラコ451mm

+カジカ422mm+5.53

kg=1426点

優勝は西川氏1500点台

口惜しや



